

ユニバック

## 空気清浄トータルソリューション 「未来2020」で最優秀賞

フィルタ製造販売、空調設備・保守のユニバック(本社・埼玉真川口市、社長松江昭彦氏)の「空気清浄トータルソリューション」がこのほど、三井住友銀行と日本総合研究所が立ち上げた「Incubation & Innovation Initiative」の主催する「未来2020」最終審査で最優秀賞(企業賞最高位)の「日本総研賞」を受賞した。

「未来2020」の「日本総研賞」は、応募のあった123チームのうち、最終審査に残った23チームの中で、社会に大きなインパクトを与え、提案に対し授与される賞。今まで当たり前だったプロダクトを見直し、時代にあったプロダクトに変化させたことにより、ニッチトップの可能性を感じさせる提案が高く評価された。

「捨てる」が常識とされてきたエアフィルタを洗浄再生にし、今の空環境に合った性能にすることで省エネ効果を実現した。松江社長は「低圧損洗浄再生フィルタによるCO<sub>2</sub>削減を事業プランとし、環境に優しく、コストも下がるエアフィルタ。ローテクだが、今後も低炭素社会に貢献していきたい」としている。

半世紀にわたり使い捨てが常識とされてきた高性能フィルタは、中・大規模ビルの「CO<sub>2</sub>の固定発生源」となってきた。排出をいかに低減するかという時代にあつて、「もったいない」という日本人独自の道徳的気風から生まれた「洗浄再生フィルタ」は、購入費・人件費・電力量を削減し、LC(CO<sub>2</sub>)を約50%カット。最終処分時はフィルタを燃料として再利用、サーマルリサイクルされる。

2006年に開発した空調フィルタ「薫風」は、2枚のフィルタをともに年1回洗浄するだけで4年間利用できる。洗浄を減らせるため、4年間でかかる維持コストを4割以上削減できる。通気性を改善して吸い込む力を抑えられるため、消費電力の削減にもなる。同製品は、06年に大型商業施設「東京ミッドタウン」に導入されたのを皮切りに、三井住友銀行本店、羽田空港第2旅客ターミナル、中部国際空港、関西国際空港第1旅客ターミナルなどに設置され、CO<sub>2</sub>排出量の大幅な削減に成功している。



「洗浄再生フィルタ」を手にする松江昭彦社長